

---

# 魔法の連鎖

三郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法の連鎖

### 【Nコード】

N2245BA

### 【作者名】

三郎

### 【あらすじ】

若者の前世によって起こる不思議な物語

## 御木本ルイ

これはフィクションで登場人物は実在しません。

いまどき公衆電話を利用するものはいないだろう。

かつて、そこに貼られていたカードの類はほとんどが、アレである。

若い女性のその写真はまるで、自分だけに微笑んでいるように思える。

が、現実には超厳しい。

「おい、おい。待て！」

俺は思わず叫んでしまった。

そんなに期待はしてなかったがこれほどとは……  
波打ったその贅肉が俺に襲い掛かった。

その重さに身動きできず、俺はただされるがままだった。

まだハタチ前、十八の俺はコチコチの童貞だった。

その巨大な肉体にキャンセルを言うまもなく、  
ベッドに押し倒された。

後はもう何がなにやらで。

下半身は何故か俺の気持ちと裏腹にドドンとイキリたつ始末。  
そんな状態の俺の一物に

「お前は見境ないのか！」  
と、心の中で怒鳴った。

事が終わった俺は放心状態……。

それが俺の初体験だった。

十八の夏、最初の失恋でブチ切れた、童貞消失がこんな惨めで  
せつない事になるとは…。

そんな暗い高校生活を終え

何とか浪人することなく大学に入学できた。

留年することなくトントントン拍子で三年まで辿り着いた。

三年ともなれば就職の準備もしなければいけない状況になるのだが

俺は一年ぐらい留年してもいいくらいの気持ちでいた。

確かにこの不景気の中将来に対し、多少の不安がある。  
が、

俺としては一つの企業で永久就職しようなどとは思っていない。

自分に合った仕事にめぐり合うまで色々体験してみようと思っ  
ていた。

そんなノータンキな頭でいられるのは

生活するうえである程度の裏打ちがあつてのことだ。

決して親が金持ちで裕福な暮らしをしているわけじゃない。

普通のサラリーマン家庭だ。

俺は小学生のときから親に勧められて株取引を始めた。

小遣いで貯めた五十万は現在一億近くに膨れ上がっている。

このことが、働かずとも何とかなるという

安易な気持ちに陥らせているのだ。

デイトレーダーと、いつでも  
大学生という身分で、

ある程度自由な時間があるからできる話だ。  
就職すればまず無理だろう。

金だけのためなら

パソコンの前でマウスを移動させながら指で打ち付ければ簡単に手  
に入る。

つまり、

俺のこの不遜な自信が、自分の可能性や、将来を極端に狭めている。

十二分に分かっているのだが……。

ある日、俺は同じ学部的女子学生から声をかけられた。

喫茶店に誘われ

その女性から突然、言われた。

「私のことが好きでしょ」

そんなことを言った女、

御木本ルイ。

アメリカ人の父親と中国人の母親を持つ、  
ハーフの彼女は、同じ大学で学部も一緒。

初めて彼女を見かけたのは入学式の日、一目惚れだった。  
それ以後、俺のマドンナとなった。

ただ、俺は高校時代の失恋の傷が癒えず、それに  
惨めな初体験もあってそれがトラウマとなり

ある意味、極度の女性恐怖症に陥っていた。

だから、遠くから眺めるだけのプラトニックラブの

妄想家、小心者となり果て、しかも俺はそれで十分満足していたのだ。

彼女には好きな男がいた。

それは偶然、見かけたのだ。

12月の寒い夕暮れ

お揃いの緑色のマフラーを首に巻いたカップルが俺のすぐ目の前を歩いていた。

女性の方はその後姿ですぐ分かった。

俺のマドンナ、しかし、隣にいるうらやましい奴は・・・

後で分かったことだが学部は違うが同じ大学の学生だった。

二人とも同じ高校出身で、そのときからの付き合いのようだった。

お揃いのペアルックは、俺が見てもお似合いのカップルだ。

まあ、プラトニック愛好家の俺としては、落ち込むというよりも妄想がより膨らみ

これはこれでいいかなあって気持ちになっていた。

まったく、負け犬もいいとこだけど、あの失恋の思い出をまた繰り返し返すぐらいなら

これで十分。妄想は俺の心を傷つけない。

その妄想は

尋常をはるかに超えて、別世界に俺を連れて行ってくれるのだ。

心に秘めた、まだ誰にもカミングアウトしていないこの思い、いや死ぬまでカミングアウトしないだろう。

そんな俺に

「私の事が好きでしょ」  
と言った御木本ルイ。

俺はそれを聞いて、ただ呆然と口を開けたままだった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2245ba/>

---

魔法の連鎖

2012年1月5日18時46分発行